

令和元年度 新しい共通教育について学生と教員が語り合う会 「フクトーク」 報告書

主催 福山大学大学教育センター（全学共通教育部門）

●趣旨

学生が国際社会の中で社会人としてのスキルを身に付け、教養を深めて高い見識を持ち、豊かな人間性を培うために共通教育の役割は大きい。そのため、共通教育の今後の充実が望まれる。そこで、魅力的な授業や学修支援の在り方等を一緒に考え企画することを学生に呼びかけ、学修の主体者である学生の参加による企画提案型の意見交換会を開催する。

これを通じて、共通教育での学び方の工夫、学びたい科目やテーマ、学修支援のポイントをはじめ学修成果が期待できる様々な工夫やアイデアなど、魅力的な授業方法や新しい学びの創出につなげ、共通教育の一層の充実を目指している。

●日 時： 令和元年 12 月 11 日（水）、16 時 30 分～18 時

●場 所： 大学会館 3F、ICT 教室「CLAFT」

●テ ー マ： 教養講座 こんな話を聴いてみたい

●参加学生

経済学部 4 名、人間文化学部 3 名、工学部 8 名、生命工学部 4 名、薬学部 5 名

計 24 名 計 4 グループ

●プログラム

- 16:30 開会の挨拶
- 16:33 全体説明
- 16:40 自己紹介（アイスブレイク） & 三役決定
- 16:50 ディスカッションの説明
- 16:55 SGD（スモール・グループ・ディスカッション）
- 17:35 グループ発表
- 17:50 講評・閉会の挨拶
- 17:55 集合記念撮影・アンケートの実施
- 18:00 解散

●スタッフ

大塚大学教育センター長、中尾教授、竹盛准教授、劉准教授、小野准教授、若松講師、Tang 助教、記谷助手、日暮助手

●要旨

共通教育について学生同士が話し合い、学生たち自身が新しい授業や学修支援の在り方等を企画提案することを目的とした「フクトーク」も今年で8回となった。今回のテーマは、「教養講座」に決定した。テーマ決定後には、参加者募集に向けて過去に開催された内容を載せた「フクトーク」のホームページも開設した。また、昨年に引き続き学生が司会を担当した。「フクトーク」参加学生の募集方法は、学内公募と学部学科からの選出の2段階となった。当日は4グループに分かれてSGD（スモール・グループ・ディスカッション）を行った。会場は、大学会館 ICT 教室「CLAFT」を利用した。

当日の活動の進行については、まず、大塚大学教育センター長が開会の挨拶として趣旨説明を行ったあと、総合司会による全体説明としてSGDの意味、プロダクト、ルール、役割の説明を行った。続いてSGDに入る前に、フリートークの時間を設け、自己紹介を行うとともに、SGDを行うための司会進行係、記録係、意見をまとめる発表者をグループ内で決めた。そして、教養講座の目的等を確認し、プロダクトとして、教養講座で聴きたい話の内容、その意義（目的・理由）、聴きっぱなしにしない方法、テーマ選定に関して学生の要望が取り入れられ易い仕組みとは、の4つの項目について提案してほしい旨を告知した。

SGDは、記録係が各グループに割り当てられた3面式のホワイトボードに議論のメモを行い、それをもとにプロダクトを作成した。SGDおよびプロダクトのまとめ作業を合わせて40分という限られた時間であったが、各グループとも活発に議論がなされ、プロダクトのタイトル、提案内容、セールスポイントがホワイトボードにまとめられた。グループ発表では、各グループの発表者がプロダクトの内容について説明を行った。4つのグループのプロダクトのタイトルを以下に示す。

- (ア) 有名人の成功談と失敗談
- (イ) グローカル講座 地域から学ぶグローバル
- (ウ) 学生であることのメリット 若い人や有名人など
- (エ) 有名人 (例) スポーツ選手、大手企業の人

内容に続く、3つの項目の提案、①意義（目的・理由）、②聞きっぱなしにならない方法、③学生の要望が取り入れられやすい方法は、次の通りであった。

- (ア) ①・人生のヒントになるから
②・ケータイを使って答えを導き出す
③・学長と直接話し合って決める
 - ・学長杯の優勝者が決める
 - ・文化祭で一般・学生から募る
- (イ) ①・地域を専門的に分析し、世界につなげていく
②・レスポ等を利用したリアルタイムの質問
③・SNSでの再発信、共有
- (ウ) ①・70分あきない、1年生以外の学生も来たい
②・感想+これをどうするか？
③・アンケート（～が来ます→アンケート→教員チェック→実用）
- (エ) ①・今まで知らなかったことを知ることができる。聞きたい気持ちを引き出す
②・聴き手に話しかける、歩きまわって話をしてくれる職業の人
③・ゼルコバ、セレッソで意見集め
 - ・議論の場を設ける

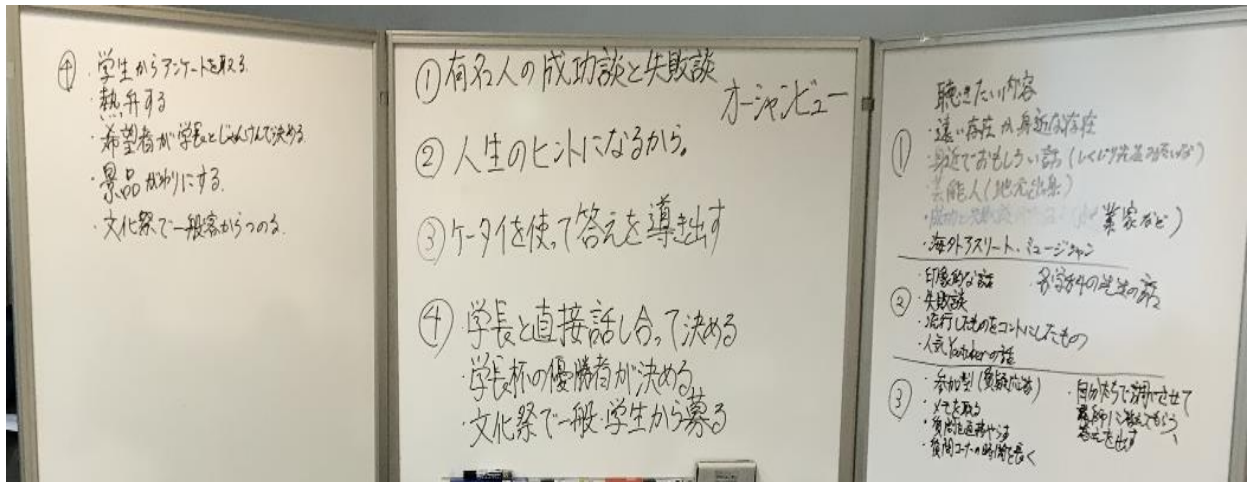
教養講座の講師は、教員の推薦により選定されるのだが、今回の「フクトーク」では、学生にとって興味のある話を聴かせてほしいという思いが反映された提案が多い印象であった。また、聞きっぱなしにならない方法と、学生の要望が取り入れられやすい方法については、ケータイや SNS、ゼルコバやセレッソなどを用いた方法が提案された。

アンケート調査の結果から、参加学生のほとんどが「フクトーク」での話し合いが有意義であった、SGD への参加も良好であった、グループ人数が適切であった、学生の意見を取り入れた新しい授業などを生み出していく仕組みを求めている、といった点に賛意を示していたことが分かる。今回の「フクトーク」で提案されたプロダクトの中では是非実現してほしいものはありますかについては、有名人の成功談と失敗談が最も多い票を集めたことから、教養講座では、学生が興味のある話を聴かせてほしいという思いがうかがえる。次回参加への可能性については、是非参加したい、内容によっては参加したい、要請があれば考える、を合わせれば 67%であった。また、「フクトーク」開催時期・時間については、前回同様、平日の 5 時限に行ったが、これについては、88%の学生が適切であったと回答し、ディスカッションの時間が適切であったという問いに対して、時間が全く足りなかった、もう少し長い方が良かった、を合わせた回答が 37%あった。当日急きょプロダクトの項目を 2 つ追加し 4 つとしたが、アンケートの自由記述欄に、テーマを絞って議論した方が良かった、抽象的だったのでもっと具体的なものにしたかったとの指摘があった。平日の 5 時限目という限られた時間であるので、当初予定通りプロダクトの項目を 2 つとした方が良かったのではと考える。

最後に、今回も関係の多数の方々にご協力をいただいたことに、厚く御礼を申し上げたい。特に、活発な議論を展開してくれた参加学生諸君と、何度もリハーサルを繰り返し、2 年続けて見事な司会ぶりを発揮してくれた 3 年生の F 君と T 君に心より感謝します。

●プロダクト (ア)

タイトル : 有名人の成功談と失敗談



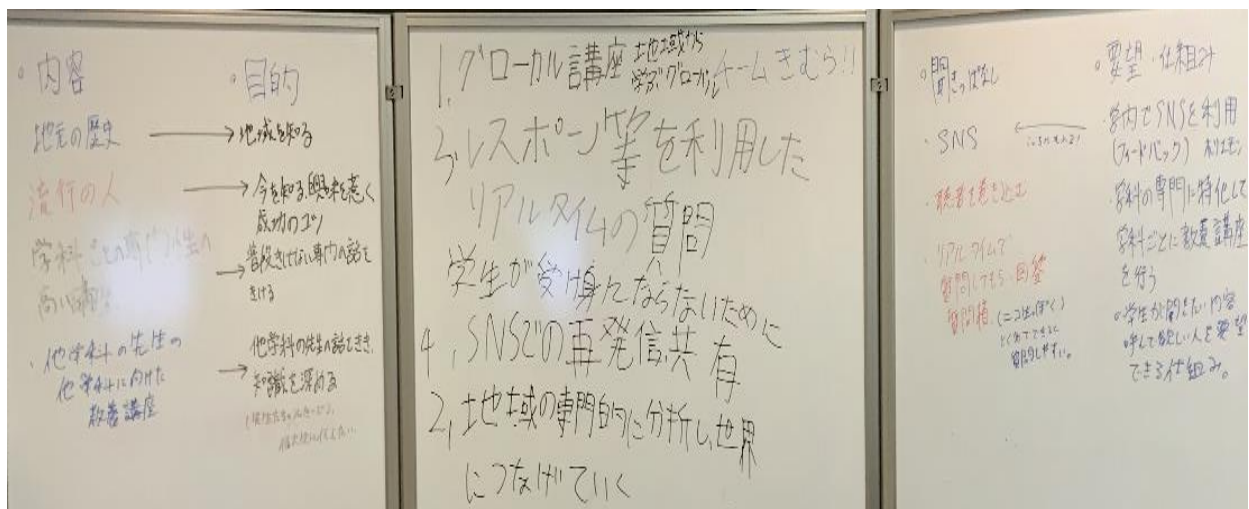
メモ (左)

まとめ

メモ (右)

●プロダクト (イ)

タイトル : グローカル講座 地域から学ぶグローバル



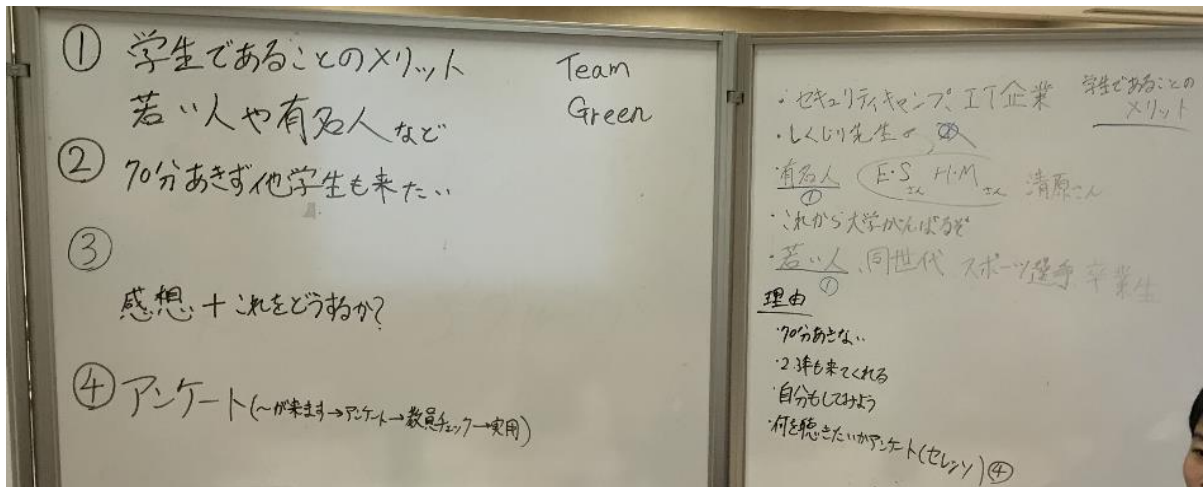
メモ (左)

まとめ

メモ (右)

●プロダクト (ウ)

タイトル : 学生であることのメリット 若い人や有名人など

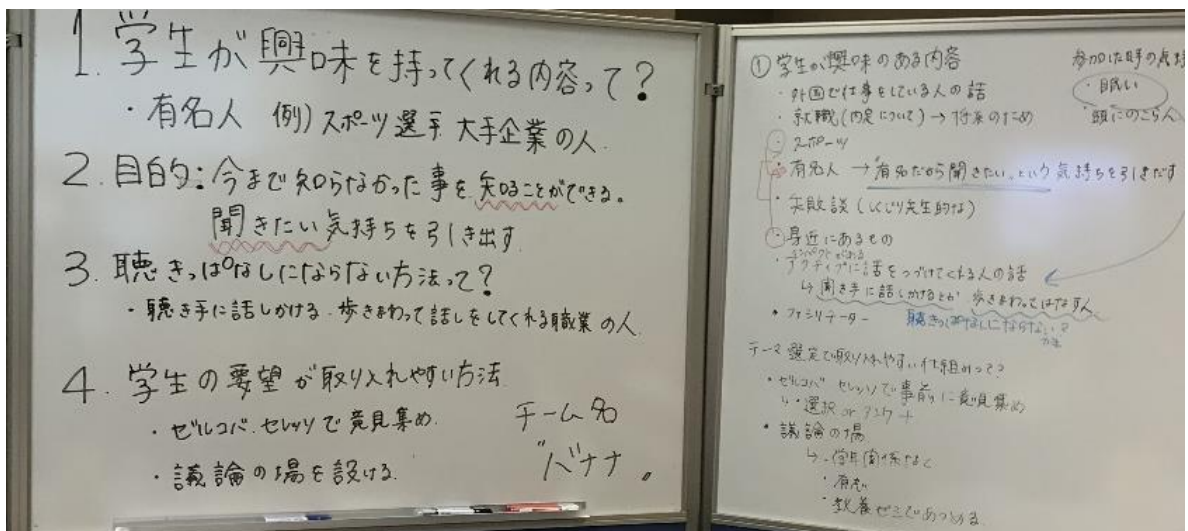


まとめ

メモ (右)

●プロダクト (エ)

タイトル : 有名人 (例) スポーツ選手、大手企業の人



まとめ

メモ (右)



開会の挨拶



全体説明



SGD (スモール・グループ・ディスカッション)



発表

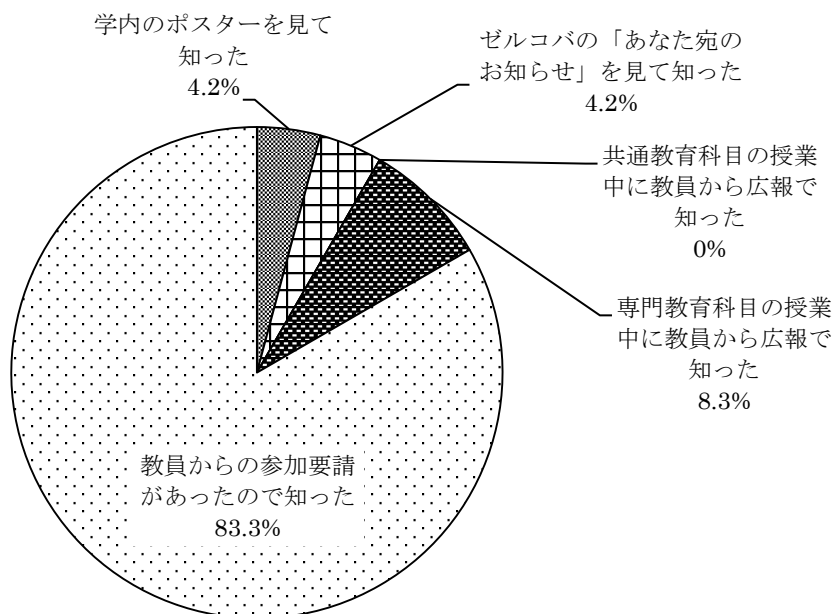


講評

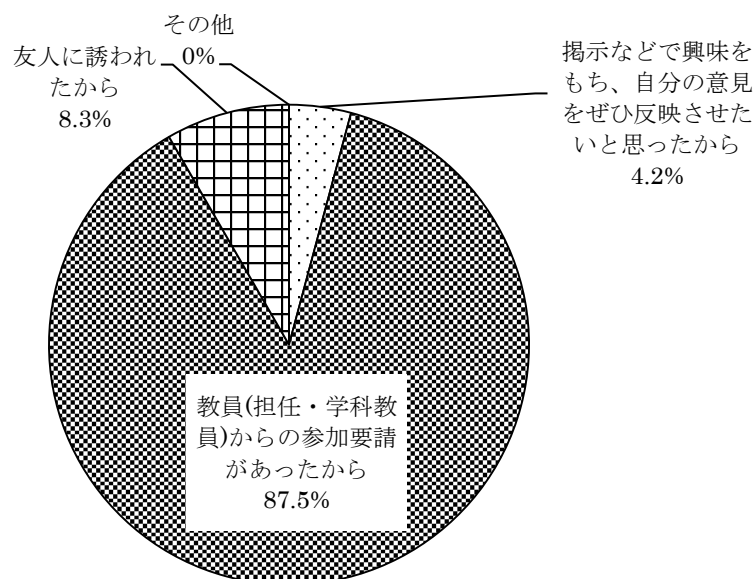
「フクトーク」参加者 アンケート集計結果

「フクトーク」参加者数 24名、 アンケート記入者数 24名

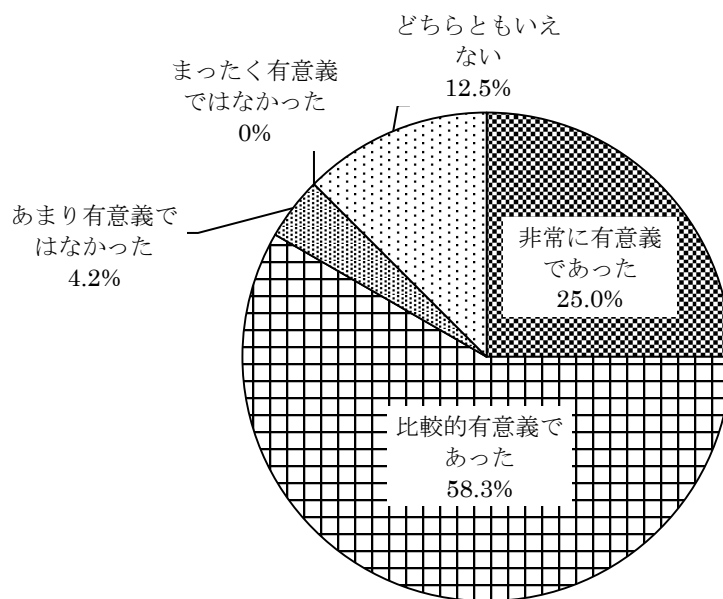
① 「フクトーク」をどのようにして知りましたか。(複数回答可)



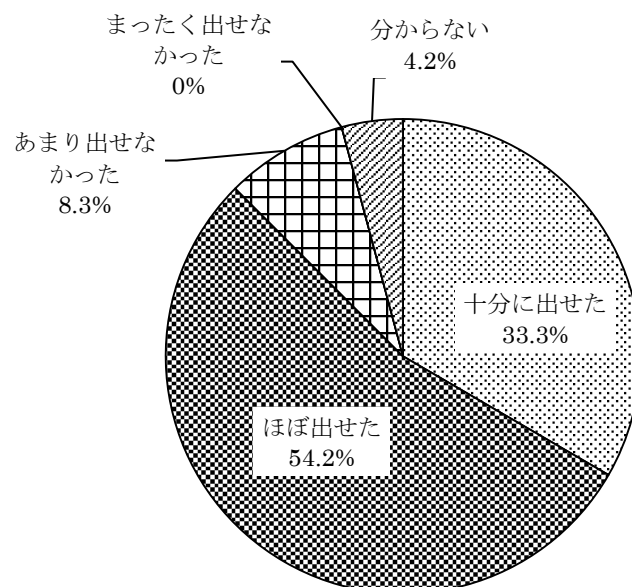
② 「フクトーク」への参加の経緯を教えてください。



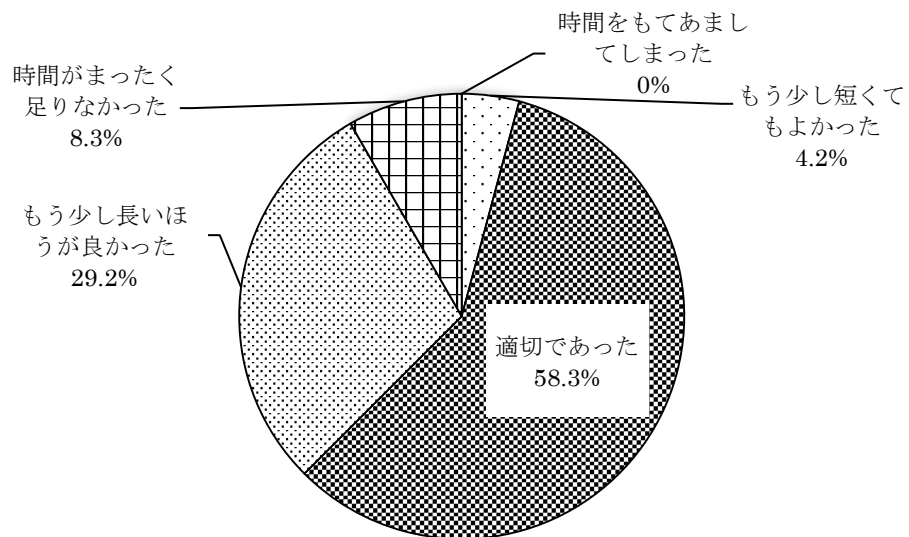
③ あなたにとって、「フクトーク」での話し合いは有意義でしたか。



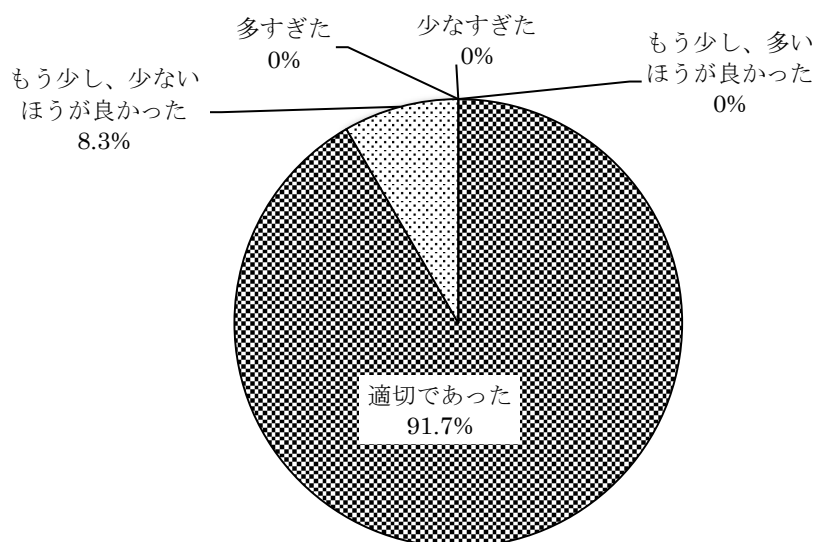
④ グループディスカッションでは、自分の意見を十分に出せましたか。



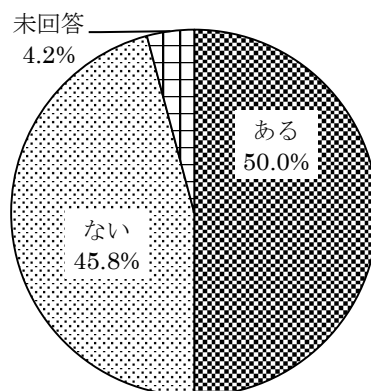
⑤ ディスカッションの時間は適切であったと思いますか。



⑥ グループディスカッションの1グループの人数は適切でしたか。

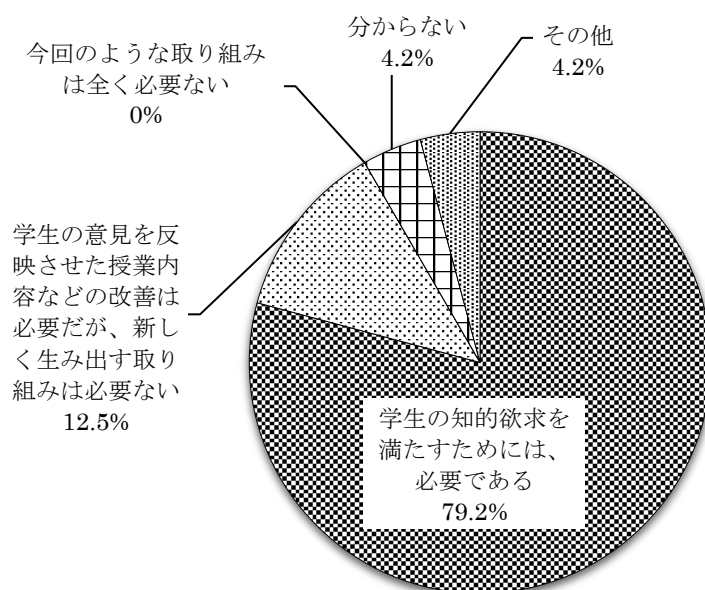


⑦ 今回の「フクトーク」で提案されたプロダクトの中では是非実現してほしいものはありますか。

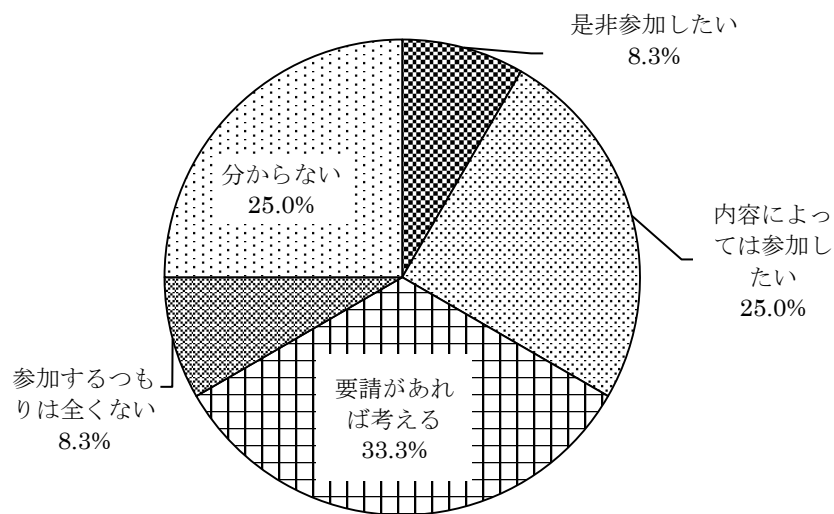


「ある」と答えた学生の提案など	人数
有名人の成功談と失敗談	9
レスポンドでの意思共有	1
ゼルコバカセレッスンによる要望の受付	1

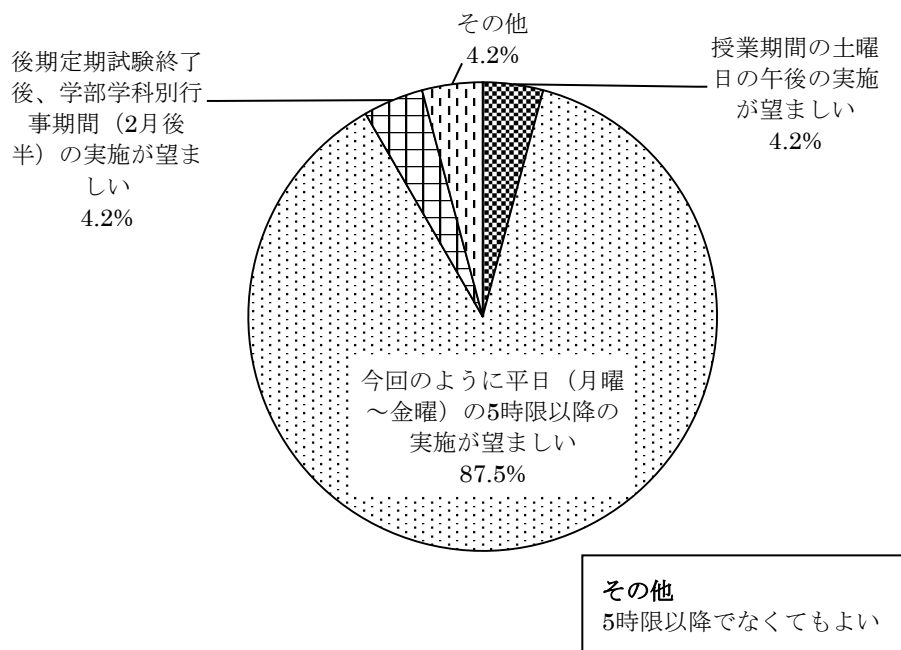
⑧ 今回、「教養講座」について議論をしましたが、学生の意見を取り入れた新しい授業などを生み出していく取り組みは、今後必要と思いますか。



⑨ 次回の「フクトーク」に参加したいと思いますか。



⑩ 「フクトーク」の開催時期、時間についての考えを教えてください。



⑪ 「フクトーク」に参加して、思ったこと、考えたこと、改善した方がよいことなど自由に記載してください。

- 時が少ないので議論項目を絞り、さらに深く1つのテーマを掘り下げても良いと考える。
- とても良い経験になる。
- ホワイトボードの使い方が難しかった。
- 40分は長いと思っていましたが、意外と時間いっぱい使うことができました。
- 先生からの講評でもあったように、抽象的だったのもっと具体的なものにしたいかったです。新しい人たちと意見交換できることがたのしかったです。
- 皆のいろんな意見がきけておもしろかった。